



建物外観（撮影：川辺明伸）

### 建築概要

建設地：高知県高知市本町4丁目  
 建築主：高知県市町村総合事務組合  
 設計：細木建築研究所  
 構造設計：桜設計集団+縦建築事務所  
 施工：(株)竹中工務店  
 建築面積：646.06㎡ 延床面積 3,648.59㎡  
 階数：地上6階、地下0階 高さ：30.995m  
 構造種別：RC造（1-3階）+ 木造（4-6階）

### 選評

敷地は高知市の中心部で正面に高知城天守閣を望む緑豊かな恵まれた環境にある。日本一の森林県である高知県下の市町村で構成する総合事務組合の新庁舎は、その県産材をアピールするため木材を多用することが設計条件として求められた。そのため多くの木を消費できる木構造を最大限に取り入れた設計としている。

構造は下3層がRC造、上3層が木造の6階建て、災害発生時に自治体の庁舎機能の支援拠点として使うことも想定し免震構造を採用。免震装置が津波の浸水被害を受けないように1階上部に免震層を持つ中間層免震とした。免震層階は駐車場からの吹き抜けになっているため駐車場と免震層の閉塞感を和らげ空間に広がりを与えている。

免震構造とすることは木造の耐震要素を使いやすくしている。東西方向に設けた木ブレースは水平力のみを負担するので耐火被覆は不要で木の現しとなり、その木ブレースなどの耐震要素が内外観のデザインによく生かされている。室内には木ブレースの格子による間仕切り耐力壁が2列に並ぶ。適度に視界が抜け空間全体が明るく開放感がある。夜になるとさらに木の暖かさが外部に溢れ出る。

都市部の中高層ビルで木材活用の可能性を示す好事例であり作品性も高い優れた建築であった。（江副 敏史）

建築主：高知県市町村総合事務組合 池田洋光  
 設計者：細木建築研究所 細木 茂  
 桜設計集団 佐藤孝浩 縦建築事務所 田尾玄秀  
 施工者：(株)竹中工務店 戸高恭明

### 免震化した経緯及び企画設計等

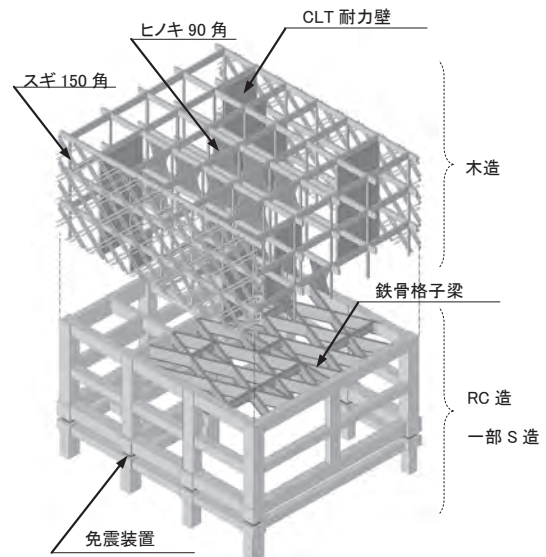
M9クラスの南海トラフ巨大地震に対応した耐震性能と、高知県産の木材を使用し4-6階の木構造を実現するため、免震構造を採用した。また、高さ2mの津波に対応した津波避難ビルとするため1F上部を免震層とする中間層免震とし、都市型の中高層木造オフィスビルのプロトタイプを目指して計画を行った。

### 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

構造体である木材を効果的に見せるため、意匠的にも特徴となっている150角（スギ）の木ブレースを南北面のファサードに現しにして使用している。また、木造階の剛性・耐力を上げるためCLTを耐力壁として用い、実大実験及びFEMによる詳細解析によってその性能を検証、設計に取り入れている。上層部を木造とした立面混構造の免震ビルは、実例も無く検討の初期段階から詳細な解析モデルで応答解析を行い繰り返し検証を行った。



建物内観（撮影：竹中工務店）



建物構成図